

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170201446), 法人名 (有限会社 コンフォール), 事業所名 (グループホーム こんふおーる), 所在地 (北海道札幌市北区新川西3条3丁目12番15号), 自己評価作成日 (令和5年9月14日), 評価結果市町村受理日, 令和5年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室の窓からは手稲山が一望でき、季節ごとの景色を見る事が出来る。ホームの裏には畑があり苗の成長過程や収穫を楽しむことができる。毎月行事が行われており外出や外食行事を楽しみ、ご家族様参加の納涼祭やクリスマスパーティーもあり、楽しいひと時を過ごしている。(3年間はコロナ過の為にご家族参加型の行事や外出行事は行われていないが、5類と緩和されたこともあり、個別にて外出(公園散歩)や買い物行事を感染予防をしながら行い始めている)ケアに関しては入居者様が状況が違っていても、代替えケアによって可能に出来るようにスタッフ一丸となり常に考えている。些細な事でも常に入居者様一人ひとりにとってより良いケアをするにはとスタッフ間で話し合いを行い実行している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0170201446-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年9月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所の基本事項：新川西地区の閑静な住宅街にあり、デイサービスを併設。幹線道路に程近く、近隣には病院やコンビニ、公園がある生活・交通に便利な環境となっている。
2) 職員の介護への基本姿勢・態度：職員は事業理念等介護の基本を踏まえ、研修を重ねて、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。
3) 家族の介護支援への好感等：家族は代表、職員が利用者・家族の声を受け止め、理解して柔軟な介護の対応姿勢に高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況：通例は家族、地域関係者、地域包括等の参加を得て、定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参会者の意向を運営に反映するように努めている。
5) 自治組織・機関等の連携：現状でまだ自粛傾向にあるが、通例では施設・地域行事でや災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、地域との関係再構築を検討されている。成果に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に職員全員が確認出来るようにしている。入居者様の日々の生活の中に理念を取り入れられるように実施している。	理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。理念通りのケアが出来ているか定期的に会議、研修の場で検証、協議しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と散歩や外出をした際には近隣住民の方と挨拶を交わすようにしている。事業所としては運営推進会議や地域の方に参加を呼びかけを行い情報交換を行っている。コロナ過の為運営推進会議は書面にて開催していた。書面にて返信をいただき情報共有を行っている。	相互の自粛傾向の中、事業所の近況の周知等、関係維持について職員間で協議しながら、相談に応じたり、日常的な挨拶等で地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進開に町内の方々の参加やご家族様へ参加の呼びかけを行っている。認知症についての話し合いなどもさせていただいているがコロナ過の為、書面での情報共有を行っていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議を行い、サービスの質の向上に生かすため、意見交換を行った事を議事録に乗せファイルに閉じスタッフがいつでも観覧できるようにしている。	コロナ前は家族、地域代表、行政の参加を得て定例で開催していた。現在は書面での開催となっているが、運営状況やヒヤリハット・事故等、現状の課題を報告し、委員から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市町村担当者と連絡を取り合い、運営推進会議で地域包括支援事業所の職員と情報交換を行い情報を共有する事で協力関係を築けるようにしている。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを受けている。通例では定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部の研修や身体拘束委員会を開催し、意見交換を行う事でスタッフ全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を定例で開催している。現状の介護実体を検証し、不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、検討を行いながら拘束虐待等々はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催し虐待について学べるようにしている。入居者様の体に出来た変色かどのようにして出来たものなのかを考え記録に残している。スタッフの態度や口調をお互いに注意しあう事で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部の研修で学ぶ機会を設けている。個々の必要性に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に利用者様・ご家族様に不安に思っている事をお聞きし不安な点について契約の説明後にもお聞きする事でそのことについてご説明・ご相談させていただき、ご理解や納得をしていただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や外部の方から気軽に意見等をいただけるよう玄関に意見箱を設けている。また、ご家族様にケアプランの説明時や面会時に意見や要望をなどないか確認させていただきようになっている。	主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、会議の場で検討して運営やケアプランに反映している。お便りの他、電話、面会等、柔軟に情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで日々の業務や入居者様のケアについて話し合いを行っている。職員の提示した課題についても話し合いを行っている。	日々の申し送りや連絡ノートを活用し、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、代表が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいや向上心を持てるように、職員の見取り入れた業務改善を行い、職員同士も連携しながら業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフのスキルアップの為、外部の研修の案内を掲示板に張りだし、研修の参加を呼びかけている。(コロナ過であった為Zoomによる物が多かった)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員向けの研修の案内が来た際、職員に呼びかけ、同業者との交流の機会を作る事で入居者様へのサービスの質の向上に努めている。(コロナ過であった為Zoomによるものが多かった)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談を行い、その方が困っている事やご要望に耳を傾ける事で、入居後も安心して生活が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っている事や今後の不安などをお聞きさせていただき、相談がされやすい関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様との会話の中から情報を収集させていただき、必要としている支援を見極めて他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と一緒に出来る役割を共に行ったり散歩や行事などを一緒に楽しみ共有することで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防対策を徹底し、ご家族様が面会しやすい環境作りをさせていただけるよう対応している。ご家族様がご本人様の様子を電話やお便りにてお伝えさせていただきご家族様とご本人様の絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のなじみの方との面会がしやすいように感染予防対策を徹底しての面会を実施している。話しやすい環境作りと手紙を頂いた際にはお返事を書いて頂き職員が責任をもって投函している。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話等を楽しめるように職員が必要時仲介役に入り話題を提供したり、食器ふきや洗濯物たたみの際には入居者様同士が協力し合いながら行われている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後等に新たなサービスを利用されている場合であってもご家族様からのご相談等を受け入れるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人様の意向の聞き取りや意思決定が難しい方からであっても普段の様子や表情、好まれている行動から希望を汲み取るようにしている。	職員は、ケア全般において定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴やどのような生活環境であったのかをご家族様やご本人様との日々のかかわりの中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の表情や行動・言動から普段の様子に変わりが無いのか。心身状態に関しては全身の観察などから現状の把握をして職員間でも情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のケアのあり方について職員間で話し合いや気づき・必要時に意見交換を行い、それを基にご家族様やご本人様からも意見や要望を聞ききって介護計画を作成している。	本人、家族の希望を取り入れ、カンファレンスの場で担当者によるモニタリング結果を基に全職員の視点で課題評価を行い、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の入居者様の変化や職員側の気づき、ケアプランの反映。実施した事等を記録に記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望やその時々ニーズに合わせて買い物の支援を行っている。コロナ禍の為スタッフが買い物代行したり通販での衣類の購入を行っている。(令和5年5月より5類へ緩和された為、個別での外出や一部買い物を行えるように対応を再開している)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根ざした生活が出来るように市の金銭管理サービスを利用したり、2カ月に1回の訪問理容に来ていただいている。避難訓練は年2回開催している。(6月・12月開催)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月に2回あり、結果についてはお便りや電話での報告を行っている。入居前からのかかりつけ医への受診に関してはご家族様にご協力いただきながら行っている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関への受診結果は職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定・入浴や更衣時に全身状態の観察や排泄状況等を基に体調変化に一早く気づけるようになっている。協力機関に報告・連絡・相談をし対応についての支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の情報提供をしている。入院中の状態は電話や往診時に病院と情報交換をして早期の退院が出来るように連携をとっている。提携以外の病院については電話にて状況の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時や必要に応じた際に、重度化した場合のご説明や話し合いを行い、ホームでの生活で出来る事、ホーム内での対応が難しい部分をご家族様と十分に話し合っている。協力機関との連携も十分にしている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、医師の指示、助言の共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命について内部の勉強会にて応急処置や初期対応について学んでいる。AEDの使い方についても学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居差様も参加していただき、年2回の避難訓練を実施している。地域の方にも運営推進会議等でお伝えさせていただき協力体制を築いている。	自然災害、火災を想定した避難訓練を定例で実施している。指定避難場所や地域町内会との協力体制、役割も含めて確認しながら、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人権の尊重やプライバシーの確保に努め、かけている部分があればその都度話し合いを行っている。	職員は、研修を通じて接遇が介護の基本であることを理解し、声掛け、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でその方の希望や思いを聞き取りどの衣類を着たいのか等ご本人に決めていただいたり、意思確認が難しい方については選択肢を出し決めていただけるようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないよう入居者様一人一人のペースに合わせた生活を支援させていただきようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着ていただく服は入居者様と一緒に選んだり、2か月に1度訪問理容に来ていただいてご本人様やご家族様の希望を聞きながら散髪していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の食事の前には入居者様におしぼりをたたんでいただいたりしている。配膳時には食事のメニューや内容の説明をさせていただいている。食後には下膳や食器ふき等の片付けをさせていただいている。	季節や馴染みの食材を取り入れ、利用者から嗜好を聞き取り、献立を作成している。おやつや出前等、外食気分を味わえる工夫で、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事摂取量・水分摂取量等については記録に毎日記載している。栄養を考えた献立を作成し一人一人に合わせた食事形態にて提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、口腔内の確認を行わせていただき、口内炎等の早期発見に努めている。必要に応じて職員が仕上げを行わせていただき、磨き残し等がないか確認させていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解して排泄の失敗を減らす為、排泄チャート表を活用しながらトイレの声掛けやトイレ誘導を行っている。介助が必要な方には職員が支援を行わせていただいている。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時にヨーグルトを提供させていただいている。便秘の方については協力機関から下剤や整腸剤を処方させていただき医師の指示にて服用されている。おやつ後にはお便が出やすくなるよう体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入居者様の希望に合わせてながら週2回入れるようにさせていただいている。体調や安全を重要視しつつ、入居者様と会話をしながら楽しい気分に入浴していただけるよう支援させていただいている。	毎日お湯はりを行い、時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて快適な入浴となるよう支援している。同性介助や担当職員、湯温、入浴剤等の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、自室でテレビやラジオ等を楽しんでいただきながらベッドにて休息されている方もいる。安全に休息がとれるよう室温や湿度調整・換気も行わせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを見ながら一人一人使用されている薬剤の特徴を理解して服薬介助を行わせていただいている。症状の変化が見られる際には協力機関への報告・連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・音楽鑑賞・家事活動の参加等、一人一人に合った支援で気分転換を図れるように対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を聞きながら外へ散歩など行っている。コロナ感染予防の為。裏庭の畑までの散歩や5類へ緩和後は個別にて近隣公園や衣類購入の為、行事として買い物へ行くなどの対応を再開している。	緩和後は感染防止に留意しながら、ホーム菜園への散歩や買い物等、個別対応にて自由な外出が出来るよう支援している。行事やコロナ禍で出来なかった事等、職員間で再開に向けて話し合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様一人一人が欲しものがある場合や職員がその方に必要と感じた場合、コロナ感染予防対策とし職員が代行してご購入させていただき支援したり、5類へ緩和後は個別外出行事の際にご本人様と購入したりさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望によりご家族様へ電話やお手紙を希望された場合は、円滑にやり取りが出来るよう職員が準備等の支援をさせていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には行事の写真を掲示し、定期定期に張り替えを行っている。共用スペースのリビングには快適に過ごしていただけるよう室温・温度・光沢等の調整を行っている。	リビングは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気に配慮している。利用者と共に作成した作品を掲示する等、季節感、温かみある雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で一緒にテレビを見たり会話が楽しめるように状況に応じてスタッフが仲介に入り話の架け橋を行っている。一人になれる時間も作れるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの写真や絵等を飾り、ご本人様が居心地よく安心して生活していただける様に工夫している。	使い慣れた物品の持ち込みを勧めている。家具類は、動線に配慮して設置されている。家族写真や趣味の物が飾られ、自宅のようにくつろげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全に生活出来るように手すりを備えていたり、歩行の妨げになる物は置かずに環境整備を行い、出来るだけ自立した生活を送れるように対応させていただいている。		